

第6学年 社会科学学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 単元 「明治の新しい国づくり」

2 単元について

本単元は、幕末から明治の初めにかけての、黒船の来航、明治維新、文明開化などの歴史的事象を具体的に取り上げることを通して、我が国は廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解することがねらいである。歴史の学習については、縄文時代から江戸時代までのそれぞれの時代において、世の中の様子や人物の働きについて調べたり、歴史の展開を考えたりすることを経験している。それらの経験を踏まえ、本単元では、明治政府が行った諸改革や文明開化による社会の変化などを関連付けたり総合したりして、世の中の様子を考え、表現する資質・能力を育成していく。なお、この学習は、その後の不平等条約の改正、日清・日露戦争での勝利、立憲政治の確立など、主な歴史的事象についての学習につながる。

本学級の児童は、これまでの学習でその時代の中心となる人物の働きや外国との関わり、当時の人々の生活の様子、文化などについて調べ、歴史への理解と関心を深めつつある。また、前単元では、江戸時代には、町人文化が栄え、蘭学や国学などの新しい学問が起こったことも理解している。学習の進め方については、提示された資料のどこに着目すればよいかを考えたり、資料から分かることを整理してノートにまとめたりすることはできている。また、資料から読み取ったことから、自分の考えをつくることはできている。しかし、資料の読み取りは、表面的な部分だけの読み取りが多く、自分の考えを根拠を明らかにして、説得力のある理由付けをしながら表現する力は十分には育っていない。

指導にあたって、まず「出会う」段階では、江戸時代（1850年ごろ）と明治時代初期（1872年）の高輪の様子を絵図を見比べる活動を通して、町や人々の様子の変化していることに気付かせる。そして、この変化のきっかけとなった出来事がペリーの来航であり、これにより日本が開国し、江戸幕府が倒されたことを捉えさせる。そこで、江戸幕府に代わる新政府が絵図のような変化に至るまでにどのような国づくりを進めていったのか調べていこうとする意欲をもたせる。「追究する」段階では、明治政府の政治方針や諸改革について調べ、新政府が目指した国づくりについて考えさせる。その後、文明開化について調べ、欧米の文化が広く取り入れられたことにより、人々の生活も大きく変化していったことを捉えさせたい。そして、自分たちの考えをもとに、明治政府が、外国に負けない豊かで強い国を目指し、近代化を進めたことを理解できるようにする。その際、説得力のある理由付けができるように、江戸時代と比較させることにより、時代の変化を捉えさせたい。「生かす」段階では、明治政府の諸改革について、改革の目的やそれぞれの改革の関係性がわかる年表づくりを行い、本単元をまとめる。

3 単元の目標

- 日本が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことについて理解することができるようにする。(知識及び技能)
- 明治時代の近代化の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、考えたことを説明したり、話し合ったりする力を養うことができるようにする。(思考力・判断力・表現力等)
- 明治時代の近代化について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

4 評価規準

ア知識・技能	イ思考・判断・表現	ウ主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、資料から必要な情報を読み取り、黒船の来航、明治政府が行った諸改革、文明開化による社会の変化などを理解している。 ・調べたことを年表や図表にまとめ、日本が欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目し、黒船の来航、明治政府が行った諸改革、文明開化による社会の変化などについて考え、表現している。 ・黒船来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化による社会の変化などを関連付けたり総合したりして、世の中の様子を考え、適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明治時代の近代化について、予想を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習を追究し、解決しようとしている。

5 単元計画（8時間）

段階	時	目標	学習活動	評価規準
出会う	1	2枚の浮世絵の様子から、江戸時代が終わり、新しい時代になったことを捉えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○江戸時代(1850年)と明治時代(1872年)の高輪の様子からどのような変化があったのか考える。 ○変化の理由を予想する。 	明治時代と江戸時代の浮世絵を比較し、疑問を持ち、新しい世の中になら変わったことを考え、表現している。 【思・判・表】
	2	黒船来航とそれに対する幕府の対応に着目し、新しい国づくりについての学習問題をつくることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○黒船来航が世の中にどのような影響を与えたのかを考える。 	明治時代の国づくりについて問いを見出し、学習問題として表現している。 【思・判・表】 学習問題について予想や学習課題を立て主体的に追究しようとしている。 【態度】
	3	開国による人々の暮らしの変化や新しい政治を目指す動きを調べ、武士の世の中が終わった経緯を捉えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○開国によって、人々の暮らしや幕府の政治がどのように変わったのか考える。 	開国による影響や幕府の対応、西郷・大久保・木戸らの働きを関連付けて、江戸幕府が倒れた経緯を捉えている。 【知・技】
追究する	4	江戸時代との比較から廃藩置県や身分制度などの改革について考え、政府がどのような国づくりを目指したのかを捉えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○どのような政治をめざしたのか考える。 思考モデル 【主張】 明治政府がめざした政治 【根拠】 資料の着目した部分 【理由付け】 資料から考えられること	明治政府が行った廃藩置県や身分制度の改革により、新しい政治の仕組みが整ったことを捉えている。 【知・技】
	5	江戸時代との税の集め方を比べ、地租改正のについて考え、そのよさを捉えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○地租改正を行ったことのよさについて考える。 思考モデル 【主張】 地租改正を行うことよさ 【根拠】 資料の着目した部分 【理由付け】 資料から考えられること	地租改正をもとに、明治政府は、経済的な国力を高めていったことを捉えている。 【知・技】

	6 本時	資料から明治政府が行った政策のねらいを考え、欧米諸国におけるような豊かで強い国づくりを目指したことを捉えることができる。	○どのような国づくりをめざしたのか考える。 思考モデル 【主張】明治政府がめざした国づくり 【根拠】資料の着目した部分 【理由付け】資料から考えられること	明治政府が、富国強兵政策を進め、欧米諸国に追いつく国づくりを目指したことを捉えている。 【思・判・表】
	7	資料から江戸時代との違いを考え、新しい時代になって西洋風の文化や考え方が取り入れられたことを捉えることができる。	○人々の暮らしや考えがどのように変わったのか考える。 思考モデル 【主張】明治時代の人々の暮らし 【根拠】資料の着目した部分 【理由付け】資料から考えられること	西洋風の文化や考え方が取り入れられ、人々の暮らしが変化したことを捉えている。 【知・技】
生かす	8	これまで学習した、明治政府の政策や人々の暮らし、社会の変化を関連付け、年表にまとめることができる。	○これまで学習した、明治政府の政策や人々の暮らし、社会の変化を年表にまとめる。	明治の近代化が欧米の文化を取り入れて進められたことを理解している。 【知・技】 明治政府の諸改革の内容や世の中の様子の変化からどのような国づくりが目指されていたのかを考え、表現している。 【思・判・表】

6 本時（6／8時）

○ 主眼

明治政府が行った政策のねらいを資料から読み取る活動を通して、どのような国づくりを進めたのか考え、捉えることができる。

○ 準備 資料（掲示用）、ワークシート（児童用）

○ 展開

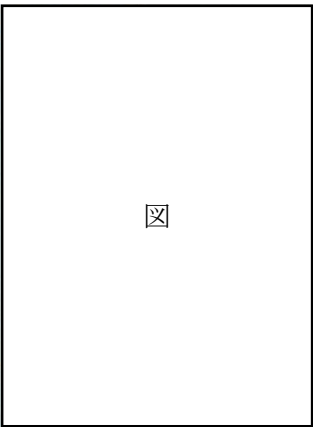
過程	学習活動	○手立て 【】評価
見通しをもつ	1 前時の学習内容をふり返り、本時の学習課題について確認する。	○ 地租改正がどのような政策だったのかふり返る。 ○ 地租改正の他に明治政府が行った官営工場の設立、徴兵令について知らせ、明治政府がどのような国づくりをめざしたのかを問い、本時学習のめあてをつかませる。
	(めあて) 明治政府は、どのような国づくりをめざしたのか考えよう。	
考えをもつ	2 明治政府が行った改革からどのような国づくりをめざしたのか考える。 【根拠を基に考えを表現する活動】 (1) 資料㉗、㉘、㉙を根拠に資料からわかることを理由付けし、どのような国づくりをめざしたのか考え、表現する。	【評価のものさし】 A 自分の考えを2つ以上作ることができる。 B 自分の考えを1つ作ることができる。

考えをもつ

資料⑦ 官営工場の分布図

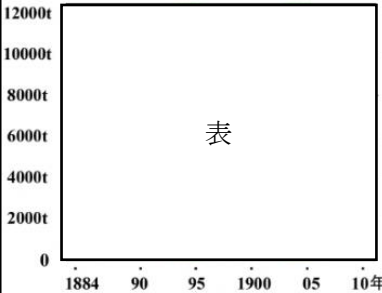
資料④ 生糸の生産量・輸出

資料⑨ 国民に兵役の義務（徴兵令）を定めた政府の説明




図

「日本史年表・地図」より



表

「本邦主要経済統計」より



資料

「小学社会6」より

考えを広げ深める

考えを振り返る

【期待する児童の表現】
 明治政府は、経済が盛んな国づくりをめざしたと思います。資料⑦の官営工場の増え方に着目すると、短い期間で、日本全国にたくさんの工場ができていることがわかります。経済を盛んにさせるために、江戸時代にはなかった工場をつくり、たくさんのものをつくれたのではないかと思います。

【期待する児童の表現】
 明治政府は、貿易が盛んな国づくりをめざしたと思います。資料④の生産量と輸出量の増え方に着目すると、どちらも増え続けていることがわかります。江戸時代には限られた国との貿易しかできなかったけれど、外国との貿易を盛んにし、多くの収入を得ることで、国を豊かにさせようとしたのだと思います。

【期待する児童の表現】
 明治政府は、武力で負けない強い国づくりをめざしたと思います。資料⑨の「海軍と陸軍をつくり」という記述から兵隊をあつめ軍隊をつくらうとしたことがわかります。江戸時代はなかった強い軍隊をつくることで、外国に負けない強い国をつくらうとしたのだと思います。

(2) 思考モデルを用いて考えを交流する。
 3 本時学習をまとめ、振り返る。

(まとめ)
 明治政府は、税や軍隊のしくみを整え、産業を盛んにして、豊かで強い国づくりをめざした。

4 次時学習の見通しをもつ。

- 資料⑦官営工場の分布図、資料④生糸の生産量・輸出量、資料⑨国民に兵役の義務（徴兵令）を定めた政府の説明を提示し、1つの資料に対して、1つの考えをつくらせる。
- 明治政府が目指した国づくりについて「思考モデル」を用いて考えをつくらせる。

(主張) 明治政府がめざした国づくり
 (根拠) 資料の着目した部分
 (理由付け) 資料から考えられること

- 江戸時代と比較させたり、出された考えを統合させたりすることで、明治政府が経済面と軍事面から、外国に負けない強く、豊かな国づくり進めていったことを捉えさせる。
- 明治政府が行った新たな政策から「経済的に豊かな国」「外国に負けない強い国」というキーワードを取り出すことで、本時学習のまとめへとつなげる。

- 「評価のものさし」をもとに振り返ることで自分自身の成長を自覚したり、達成感を味わったりすることができるようにする。

【評価規準】 (思・判・表)
 明治政府が、富国強兵政策を進め、欧米諸国に追いつく国づくりを目指したことを捉えている。

- 人々の暮らしや考え方は、どのように変わっていったのかを予想させることで、次時への見通しをもたせる。

